

2026. 2. 16.

(公財)全国高体連バレーボール専門部
審判委員会

2026年度のルールについて

先般の委員総会にて来年度ルールの変更の有無について質問がありました。その時点では、未定と回答いたしましたが、先日の JVA 審判規則委員会において、現在 FIVB で適用されている試験運用ルールを国内でも取り入れることが決定されました。

つきましては、全国高体連においてもインターハイより国内適用ルールを運用いたしますことを、取り急ぎ、ご連絡申し上げます。

以下の 2 点が FIVB で適用されている試験運用ルールの概要です。

- ・ チームの 2 回目のヒットが指を使ったオーバーハンドパスで行われ自チームの空間内にボールが飛んだ場合は、手の中で連続して接触してもダブルコンタクトの反則にならない。アタックヒットが完了（ボールがネットの垂直面を完全に通過するか、相手ブロックに接触）したときは、ダブルコンタクトの反則になる。
- ・ レシービングチームのポジションの反則が成立するのは、サーバーがトスをした瞬間である。トスをした瞬間までに、コート内に位置していなかったり、ポジションが完全に入れ替わったりしたケースは反則となる。

なお、詳しい取り扱いについては、3/20 に東京都の慶應義塾中等部体育館にて開催されます全国審判講習会にて正式に伝達いたします。その内容をご確認くださいませようお願いいたします。